since1961
2018
No.685
11

広報しばた

そり競技の楽しさを子どもたちへ

冬季オリンピックの正式種目にもなっている「そり競技」の楽しさを身近に体験してもらおうと、「第４回プラぞり大会」が開催されました。ソチオリンピックに出場した黒岩俊喜さん（仙台大学大学院）、小室希さん（仙台大学客員研究員）ら一流選手からそりの滑り方を教わり、勢い良く斜面を滑り降りてゴール。
将来、この中からオリンピックアスリートが生まれるかもしれません。
【写真：10月13日（土）柴田町太陽の村】

特集 集落ビジネス

上川名地区や入間田地区などで行われている集落ビジネスを皆さんはご存知でしょうか。
農山村地域ならではの自然や風景、郷土料理や伝統文化を活用し、地域の活性化や交流人口の拡大を図ることなどを目的に、各地域で行われている新たな仕事起こしをご紹介します。

問 まちづくり政策課　TEL54-2111

地区の危機感から生まれた上川名の獨酒

上川名地区でも、どの農山村地域にも見られる人口減少、地域の高齢化などの問題がありました。農家の担い手がいないという状況を「自分たちで何とかしないと」という思いから、町内でいち早く「上川名地区資源保全隊」を結成しました。

この資源保全隊の活動が集落の在り方を考える機会となり、地域の自然・歴史・食などの資源を活用して都市部との交流を活発に行い、地域の活性化を図ろうと、平成22年に「上川名地区活性化推進組合」を設立します。

そして、活性化推進組合では、昨年、どぶろく特区の認定を受け、今年から「どぶろく〝上川名〟」の製造・販売を始めました。

原料の米は、上川名産のひとめぼれを使用し、仕込みはもちろんですが、出荷に至るまで、すべて丁寧に手作業で行われています。

そのため大量生産は難しく、年間1,000リットルの生産量を目標としています。生産が追いつかず、注文いただいていた皆さんへ届けることがなかなかできませんでしたが、「ようやくすべての方へ届けることができ、うれしかった」と平間組合長の奥さんで営業担当のつや子さんは笑顔で話してくれました。

購入された方からは、「おいしい」という声が聞かれ、リピーターの方も多いそうです。

平間組合長は、「どぶろくは、おかげさまで人気をいただいていますが、儲けを出すことは難しいです。でも、町外の方からも注文を多くもらっていますし、また、上川名の取り組みを県内外から視察に来てもらったり、全国の「上川名」姓の方が集まるイベントを

どぶろく製造工程

初添

麹と酵母を混ぜ合わせ、酒の元となる酒母を造り、温度を管理しながら４日ほど寝かせます。

留添

蒸した米を冷まし、水を加えて酒母と混ぜます。仕込んだ量を正確に計測し、再び、温度を管理しながら６～７日寝かせます。

アルコール度数測定

アルコール度数を測定。適正な度数で発酵を止めるために、冷凍保存します。

ラベル貼り

瓶詰め作業

完成

平間　榮雄さん
（上川名地区の行政区長、資源保全隊長、活性化推進組合長を兼ねる）

上川名地区資源保全隊の活動は、用排水路の江払い、江刈のほか、花の植栽やホタル生育環境の保全、子どもたちによる用排水路の生態系調査など多岐にわたります。平成24年には、「宮城県農地・水・環境保全向上対策地域協議会長賞」を受賞しました。

また、上川名地区活性化推進組合では、ホタル鑑賞会や新そばまつり、上川名貝塚周辺の公園化、農産物直売所「プチみちの駅〝とみかみ〟」と農村レストラン「縄文の幸」の開設などに取り組んできました。

私たちの活動に大きな影響を与えてくれたのが、民族研究家の結城登美雄さんです。結城さんとは初めて会ったときから意気投合し、今では、私は結城さんを「あんちゃん」と呼んでいます。何度も上川名に来てもらい、地域づくりについて、いろいろとアドバイスをもらうことができたことがとても大きかったです。今も交流があり、近くに来たときは、必ず上川名にも来てくれます。

開催したりするなど、これまでの活動を通じて、つながり人口は確実に増えています。人口減少、高齢化などでなかなか新しいことをしていくことは難しくなってきていますが、これまでやってきたことは継続していきたいと思っています。今後は、活性化推進組合を法人化していきたいとも考えています」と語ってくれました。

がんばる農村地域として、自分たちの住む上川名地区に愛着と誇りを持ち、地域の皆さんが一体となり、常に先進的な取り組みを行ってきた上川名地区は、集落ビジネスのモデル地区となるものです。

皆さんも活気溢れる上川名地区に足を運んでみてはいかがですか。

問 **上川名獨酒製造所**
柴田町大字上川名字舘山67-3
（農村レストラン「縄文の幸」隣）
TEL080-5220-1093

眠っていた古民家を宿として
「柚子のあぜ道 雨乞のかえる」

「一般社団法人かかしの一本足 かえるのあぐら」は、入間田地区にある築170年の古民家をリノベーションし、シェアスペースとして貸し出したり、ランチや月一回ラーメンを提供しています。

今年の4月からは、古民家での宿泊や、敷地内の竹林を利用して今話題の新たなキャンプスタイル「※グランピング」も始めました。

※グラマラス（魅惑的な）とキャンピングを掛け合わせた造語

自分たちの手で古民家を再生

古民家の改修には多額の費用がかかるため、建築業者への施工依頼は最小限に抑え、自分たちでできることは自分たちで行っています。

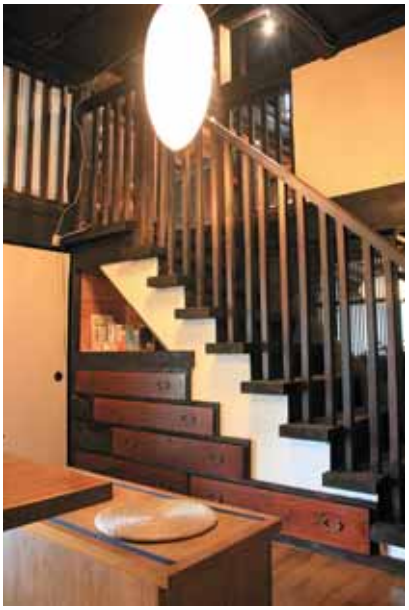
生まれ変わった古民家は、土間や囲炉裏など日本古来の建築の良さを残しつつ、快適に過ごすことができるようになりました。そして、宿泊される方がより楽しめるように露天風呂も完成しました。

地域と県外・国外をつなぐ拠点に

ホームページや取材を受けること以外、特に宣伝をしているわけではないということですが、利用された方からの口コミで評判が広まり、少しずつですが、お客さんも増えてきました。

県内のみならず、東京などの首都圏や外国からのお客さんもいらっしゃるそうです。

最近では、ご近所の方とも顔なじみになり、宿泊に来られたお客さんが、そのご近所の畑で野菜の収穫を体験させてもらうなど、地域とのつながりも生まれ始めてきました。



集落ビジネスの成功例を目指して

「週末は予約で埋まることも多くなり始め、稼働率も上がり、単月ごとではビジネスとして成り立ってきました。まだまだ途中の段階ですが、全国的に見ても古民家を利用したビジネスは、成功した事例はほとんど無く、ここが成功すれば、最初の成功例となる可能性もあります」と話す小関さん。

趣のある古民家、そこから眺めることができる昔から変わらない里山の風景。今後、ここからどんな新たな取り組みが生み出されるのか目が離せません。

一般社団法人
かかしの一本足 かえるのあぐら
価値創造人 **小関 朋宏**さん

柴田町は社会人1年目のときにお世話になり、馴染みのある町で、第二の故郷だと思っています。交通の便もよく、大都市の仙台にも近い、すごく良いところです。そして、素晴らしい古民家にも巡り会い、ここからの風景もとても気に入り、ここで事業をすることに決めました。

現在は、古民家だけですが、それでもこれだけのお客様が来てくれるようになったので、農業体験、サイクリングロードなどが組み合わされば、もっと人が集まる場となるはずです。やりたいことは、満載なので、ぜひ、行政と一緒に、地域と一緒に町を盛り上げて行きたいです。

アメリカ合衆国オレゴン州ポートランドから、お子さん2人とともに宿泊に訪れていたトムさんご夫妻

日本は初めてです。ここは、民泊情報サイトで知りました。古民家なら、ホテルなどではできない、特別な体験ができるし、伝統的な文化に触れることもできると思いました。子どもの教育にも、この体験は非常に良いものです。昔ながらの日本の風景は美しいと感じます。地域資源を活用して、活性化させようという取り組みは素晴らしいと思います。

問 一般社団法人 かかしの一本足 かえるのあぐら
柴田町大字入間田字下台 26　TEL 87-8890
http://www.yuzunoazemichi.jp/

各集落の直売所

店頭に並ぶ新鮮な野菜の数々や手作りの商品。直売所ごとに工夫を凝らしていて、お客さんに大好評です。町外からも数多く来ていただいています。

問 農産物直売所 みでがいん

柴田町大字葉坂字桟敷場 4-1　TEL 56-3662

問 産地直売所 プチみちの駅 “とみかみ”

柴田町大字富沢字青木町 6-2（むつみ学園隣）　TEL 090-9743-1146

問 農産物直売所 お羽山さん

柴田町大字成田字杉ノ内地内　TEL 56-3929

問 農産加工施設 下名生ふぁーむ

柴田町大字下名生字町屋敷 66-1　TEL 87-8118

健康情報クリップ

なるほど！みんなの健康ライフ シリーズ51

問健康推進課　TEL 55-2160　FAX 55-4172

第51回のテーマは、しばた健康づくりポイント事業「健康100日チャレンジ」です。

「健康100日チャレンジ」は、健康寿命の延伸に向け、健康的な生活習慣を身につけることを目的に実施しています。

2年目となる今年は、5つのチャレンジ種目からお好きな種目を１つ選んでチャレンジスタート。100日間毎日記録簿に記録して、提出し、達成状況により健康づくりポイントが最大5ポイントゲットできる事業です。6月から開始して、これまで160人以上の方が参加しています。「計測、運動、ウォーキング、禁煙、食生活改善」のチャレンジ種目のうち、運動チャレンジは半数近くの方が参加している人気種目です。運動チャレンジに参加された方の感想を一部ご紹介します。

チャレンジ達成者
10ポイントたまって、図書カードと交換できました。

参加無料

100日運動チャレンジの場合

1日1回30分の運動を100日間取り組む

〈記録簿に記録する内容〉
実施した運動内容や運動時間

〈取り組んだ運動例〉
ラジオ・テレビ体操、ストレッチ、
筋力トレーニング、ダンベル、自転車など

達成者の声

■初めての100日チャレンジでしたが、なまけぐせのある私にはうってつけでした。来年もチャレンジしたいと思います。
■一日でも休んでしまうと気持ちが崩れると思い、とにかく続けてみた。記録することで100 日を振り返り達成感を味わえた。体調も良いので、今後も運動を続けたい。
■達成率 99%。健康増進のため今後とも続けて行きたい。
■みんなで一緒に顔を合わせると「チャレンジ続けてる？」と声がけすることにしました。
■今年はとても暑い日が多かったが、毎日少し運動して自分なりに頑張ったと思います。
■昨年に続き２度目の100日チャレンジでした。昨年よりスムーズに運動ができたと思います。また、今年は２度チャレンジできるので楽しみでした。

参加で１ポイントゲットできる「健康100日チャレンジ」は、11月5日(月)まで健康推進課４番窓口で参加申込み受付中です。

保健師よりワンポイントアドバイス

運動で健康づくりを始めたいと思っている方には良いきっかけになります。自分に合った無理のない運動に取り組みましょう。興味を持たれた方は、事業に参加して健康をゲットしましょう。

まちかど NEWS

植栽されたサクラ、アジサイ、モミジ、ツバキが
四季折々の風情を楽しませてくれます。

船岡城址公園に日本庭園が完成

10月10日(水)、一般社団法人宮城県造園建設業協会青年部設立30周年記念事業として、船岡城址公園内の平和観音像の周囲に作庭いただいた日本庭園の完了式が行われました。

相原雅敏部長が、「最高の庭園を造ることが出来たので、多くの人に見ていただき、日本庭園の良さを感じていただきたいと思います」と述べると、滝口町長は素晴らしい日本庭園を造っていただいたことに感謝の意を表しました。

庭を見た人が明るい明日へと羽ばたけるようにとの思いが
込められています。

皆さんに福が舞い込みますように

「第5回みちのく招福まつりinしばた」が、10月14日(日)に槻木生涯学習センターで開催されました。

東北の祝い踊り大黒舞のほか、さんさ踊り、花笠音頭、すずめ踊りなど、東北各地の民俗芸能が披露され、来場者からは、大きな拍手が送られていました。

来場するのは2回目という片桐クニ代さん(船岡)は、「今回も素晴らしかったです。特に秋田県立由利高等学校民謡部の生徒の舞台(大黒舞などを披露)は感動しました。ぜひ、来年も来たいと思います」と話をしてくれました。

柴田小学校の1～5年生による大黒舞。
地域の伝統が引き継がれています。

第一部、第二部とも会場は満員となりました。

若松キミ子さんの100歳をお祝い

NEWS

花が好きで、自宅も花でいっぱいにされていたそうです。

さくらの杜(大河原町)に入所されている若松キミ子さんが、9月21日(金)に100歳を迎えられました。

これまで詩吟、日本舞踊、編み物、ゲートボール、そして、60歳のときにオートバイの免許を取得するなど、いろいろなことにチャレンジしてこられた若松さん。

健康の秘訣は、3食残さずに何でもよく食べることだそうです。

いつまでもお元気でいてください。

東船岡小学校開校30周年

NEWS

これまで、1,893人の卒業生が巣立っていきました。

東船岡小学校が開校30周年を迎え、10月12日(金)に記念式典が挙行されました。

東船岡小学校は、平成19年に学校と地域、保護者がともに学校運営に関わるコミュニティ・スクールに県内初の指定を受け、地域とともにある学校づくりを行っています。

児童代表で、6年生の砂金健汰(けんた)さんは、「東船岡小学校は、時計台と樅の木があって、地域には温かく、優しい人がたくさんいる、自慢できる、素敵な学校です」と述べました。

駐日オランダ王国大使が来町

NEWS

らぽるの森で試食した
アルト・ヤコビ大使（前列左から4番目）

10月9日(火)、駐日オランダ王国大使のアルト・ヤコビ氏が社会福祉法人はらから福祉会の視察に訪れました。

はらから福祉会では、障がい者の自立を目指しており、オランダ産の仔牛を原材料に、牛タンの製造を行っています。

加工工程の視察や、はらから製品の試食を行ったアルト・ヤコビ大使は、「はらから福祉会の障がい者雇用への取り組みは、日本国内においても、モデルケースとなるべき素晴らしいものです」と視察の感想を述べられました。

広　告

広　告

第6回しばた曼珠沙華まつり

NEWS

しばた曼珠沙華まつりが9月15日(土)から30日(日)まで開催されました。

6回目となる今年は、約16,800人が曼珠沙華で赤く染まった船岡城址公園を訪れました。

期間中は、浴衣着付け体験やミニコンサートのイベントなども行われました。また、今年初めて、ライトアップを行う夜間鑑賞デーも開催され、昼間とはまた違う雰囲気の曼珠沙華が、来場者を楽しませてくれました。

昨年より3万本多い20万本もの曼珠沙華が咲き誇りました。

子どもたちの笑顔がいっぱいの2日間

NEWS

10月6日(土)、7日(日)、仙台大学で「2018東北こども博」が開催されました。

最新のおもちゃやスポーツを体験できるコーナーがたくさんあり、どのコーナーでも子どもたちが夢中になって遊んでいました。

家族3人で訪れていた一條拓司さん(船岡)は、「初めてですが楽しかったです。子どもがまだ小さいですが、大きくなったらもっと楽しいと思います」と笑顔で話してくれました。

2日間で17,300人の来場者がありました。

見て、体感して、ジブンを知るまつり

NEWS

「しばた健康まつり2018」が、10月13日(土)に、柴田町保健センターで開催されました。今年は、「ジブン観察!セルフモニタリング」をテーマとし、運動や骨密度測定など、体験コーナーが盛りだくさんでした。

「親子の絆を深めよう!楽しい親子運動」に参加した佐藤隆行さん(船岡)は、「子どもも私も楽しめましたし、親子でのマット運動は貴重な体験でした。自宅でもやりたいです」と話をしてくれました。

「笑いで心とからだの健康づくり講話」では、参加者の笑顔があふれ、笑いの健康効果を体感できました。

広　告

広　告

笑顔がいっぱい運動会

9月29日(土)、町内の各保育所で運動会が開催され、練習を重ねてきた子どもたちが、その成果を元気いっぱいに披露してくれました。

船岡保育所では、徒競走が行われ、転んでも泣かない子どもたちの成長した姿に、保護者からは大きな声援が上がっていました。

徒競走に出場した佐藤心希さん（5歳）は、「1等賞になれてとても嬉しいです。来年の運動会も1等賞を取りたいです」と笑顔で話してくれました。

ポーズもしっかり決まりました。

親子のコミュニケーション講演

10月3日(水)、船迫生涯学習センターで、「パパ・ママ・家族の講演会」が、柴田町PTA連絡協議会の主催で開催されました。

講師のコーチング研修会社ドリームフィールドの鈴木満氏からは、子どもの話を聴くことの大切さなど、これまでの自分の経験談、失敗談などを交えながら、子どものやる気を引き出すコーチングについての話がありました。

参加者は、ユーモア溢れる鈴木氏の話を熱心に聴いていました。

町内小中学校の教師や保護者の方々など
90名が参加しました。

お父さんも子育てに積極的に参加

9月16日(日)、槻木生涯学習センターで、イクメン講座が行われました。

今回は、アウトドアでもできるビニール袋を使った料理を西住生活学校の方々に教えていただきました。

参加者の遠藤充剛さん（四日市場）は、「普段は子どもと一緒に料理をすることはないので、これをきっかけに自宅でも一緒にやってみたいです」と話してくれました。

次回は牛乳パックを使って椅子作りを行うそうです。

お父さんたちは、お子さんと過ごす
貴重な時間を楽しんでいました。

広　告

広　告

プロが本気で作った「コマ」が寄贈されました

NEWS

10月2日(火)、仙南地域で製造業を営む企業で構成される仙南マシンクラブから、町内の小学校へコマと土俵が寄贈されました。

寄贈されたコマは、製造業のプロ達が持てる技術を結集してぶつかり合う「全日本製造業コマ対戦しばた産業フェスティバル場所」の開催に合わせて、子どもたちにも楽しんでもらおうと贈られたものです。

仙南マシンクラブ会長の熊谷裕一さんは、「このコマをきっかけに子どもたちが〝ものづくり〟に興味をもってくれたら嬉しいですね」と話されました。

町内の小学校全ての学年に寄贈いただきました。

みんなで協力して作った竹ぼうき

NEWS

10月18日(木)、船迫中学校の2年生が、今年の5月に上川名地区で竹林整備の必要性について学習し、その時に伐採した竹を使い、学校支援ボランティアの上川名地区活性化推進組合の指導のもと、竹ぼうき作りを行いました。

原田夢叶(ゆかな)さんは、「みんなのマイぼうきを作ることができてうれしかったです。このマイぼうきで地域をきれいにしたいです」と話していました。

今後は、作った竹ぼうきで、地域の清掃活動が行われる予定です。

初めて使う道具に戸惑いながらも
立派な竹ぼうきができました。

槻木の芸術・文化の魅力を伝える

NEWS

10月20日(土)と21日(日)に、槻木生涯学習センターで槻木地区ふるさとまつりが開催されました。

日ごろから地域で活躍されている方々の焼き物、写真、書道、盆栽などの作品が展示されたほか、2日目は、歌や踊りなども披露されました。

舞踊を披露した菊扇会の富沢節子さんは、「わが郷土のためと思い一生懸命踊りました。この日のために練習した演目で、一人で踊るのは初めてで緊張しました」と無事に終え安心した様子で話してくれました。

来場者は、様々な作品やステージ発表を見て、
楽しんでいました。

広　告

広　告

フットワーク 150

柴田町長　滝口　茂

うたごえ喫茶の今

全国各地で、うたごえ喫茶が再びブームとなっているようです。アコーディオンを伴奏に、皆でロシア民謡やフォークソングを、体を動かしながら歌っていた当時の光景が蘇ってきます。

一人、マイクを握って歌うカラオケとは違い、皆で一緒に歌うところに楽しさがあり、また、その雰囲気の中に包まれていると、いつしか連帯感が生まれ、生きる力が湧いてくるところにその魅力がありました。

うたごえ喫茶は、終戦後の1950年代に生まれました。当時は、朝鮮戦争が起き、60年代には、日米安全保障条約に反対するデモ隊が、国会周辺を埋め尽くした映像が記憶の中に焼きついています。65年頃には、ベトナム戦争反対運動が、そして、60年代後半には、学生運動が激しさを増し、世の中が騒然としていました。そんな中、怒りや不満を国家にぶつける労働運動や学生運動に参加した人たちの、心のオアシスとして受け入れられたのが、うたごえ喫茶でした。

多くの若者が、「ともしび」や「トロイカ」、「カチューシャ」といった、日本のメロディやリズムとは異なる哀愁が漂うロシア民謡に、心を奪われましたし、また、民族衣装を身にまとい、皆が輪になって、身軽な動きと早いテンポで演技されるコサックダンスなどに、殺伐とした日本とは異なる理想の国のイメージを重ね合わせていたものでした。

その後、労働運動や学生運動が下火になり、さらに、カラオケがブームになるにつれて、うたごえ喫茶は、一つ、二つと消えていきました。豊かな時代の到来が、うたごえ喫茶自体を求めなくなったのだろうと思います。

しかし、ここにきて、再びうたごえ喫茶ブームとなっているのは、一人暮らし、二人暮らしの高齢者の皆さんが、足しげく通い始めたからにほかなりません。

白髪が交じった皆さんが、青春の思い出が詰まった歌を一緒に歌うことで、老いが迫りつつある自分を忘れ、青春時代のように再び、清々しく生きようとしているその姿には、同年代の私も共感を覚えます。

お金を出せば、ある程度のものは何でも手に入る豊かな社会の中にあって、一人老いていくことへの不安や寂しさが広がる、そんな殺伐とした時代の到来が、再び、うたごえ喫茶を求めているのだろうと思います。

シリーズ

問 町民環境課　TEL 55-2113
FAX 55-4172

しばたecoライフ情報 ⑯

～環境にやさしいまちを目指して～

食品ロス

「食品ロス」とはまだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、年間約646万トンが食品ロスになると言われ、国民一人当たり毎日茶碗一杯分（約139グラム）の食品を捨てていることになります。これは、飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量の約２倍に相当します。

私たちができることは、まず「買い過ぎないこと」です。値段が安いからと買い過ぎると、食べ切れずに食品を腐らせてしまう原因になります。また、賞味期限と消費期限の違いを理解することも必要です。賞味期限は「おいしく食べられる期限」で、消費期限は「期限が過ぎたら食べないほうが良い期限」です。賞味期限が切れていてもすぐに食べられなくなると言うわけではありません。そして何より「残さず食べる」ことが大切です。

食品は必要なものを必要な量だけ購入し、購入した食品は全て食べきることを心がけ、食品ロスを減らしていきましょう。

新行政区長を紹介します

10月1日付けで、6A区副行政区長に辞令が交付されました。
（任期　平成31年3月31日まで）

6A区副行政区長
二階堂　正
（にかいどう　ただし）

こうほう文芸

俳句

能管の高き一音銀河濃し　石母田星人
綿虫やゆっくり下りる遮断棒　鎌形　清司
遮断機のうゑ凍雲の裾明り　齋藤　善則
窯変の冷え凄まじき器かな　鈴木　三山
雁のこゑ手捏ね壺の深さかな　鈴木　清子
柚子は黄にまなこ定まる赤子かな　鈴木　幸子
冬晴や触るるものみな透明に　相馬カツオ
窯変の千三百度冬に入る　峠　三枝子
熊眠る窯場かつての海の底　成田　一子
気づかれぬように色づき夕月夜　下名生　笠松ふみ子
雨にぬれ青柿しだる散歩道　船岡　可沼　妙子
カラオケの秋の夜長も日は移り　韮神　葛
そこここに実る田んぼと電気柵　西船迫　安ヶ平奈津枝
さんま焼く今は懐かし七輪で　船岡　安藤　節子

川柳

ケアホームいっとき社交場となり　下名生　笠松ふみ子
今年こそ腹いっぱいに秋刀魚食う　西船迫　安ヶ平良三
豊作だいけ好かね～な台風だ　四日市場　鳥井崎七十老
こころ旅毎朝心いやされる　船岡　阿部美代子
新聞はめくるだけだが指体操　船岡　小林　夢子
人生を歌で楽しむ老人会　槻木　加藤　マサ

短歌

ながながと地を這ふみみず雨にぬれ
どこへいくの？児はじっとみる　船岡　可沼　妙子
人の輪に心つなげてボケ防止
にこっと笑ってほほえみ返し　西船迫　下浦　智子
街道のおも影残し舟迫
母の手を引き阿弥陀六尊　大槻　信吉
図書館で孫の気に入る絵本借り
読み聞かせたら「なんでなんで」と　本船迫　森田　眞六
荒畑に伸び放だいの秋桜よ
誰に見せるも囁きあって　船岡　伊藤タイ子
ジャージャーと水道水を出しをれば
被災地思い申し訳なく　船岡　沢田　順子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで**11月12日(月)**までご応募ください。　問 まちづくり政策課　☎54-2111

広　告

広　告

柴田町の記憶をたどって

芸術の秋。地域や学校などで行われてきた文化祭の様子を振り返ります。

（広報しばた昭和52年11月号より）
船岡中学校の文化祭で舞踊を披露する生徒たち。

（広報しばた昭和59年12月号より）
芸能発表大会で真室川音頭を披露する子どもたちに大きな拍手が送られました。

こども美術館

「きれいにさいたよ」(絵)
槻木小学校1年
齋藤　成珠（なるみ）さん

「ルドルフのゆめ」(絵)
槻木小学校2年
髙橋　ほのか さん

柴田町
フェイスブック
https://www.facebook.com/town.shibata

町の景色やイベントなどを紹介！

問まちづくり政策課　TEL54-2111

広　告

広　告

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。

思いを胸に Vol.60

お客様の理想の空間を形にするために

株式会社 ヤマプラス仙台
笠松 直晃（なおあき）さん（27歳）

今回は、四日市場地区でインテリア資材の販売・設計施工、オーダーカーテンの縫製などを行っている株式会社ヤマプラス仙台の笠松直晃さんをご紹介します。

生活空間における壁紙や、カーテンなどのインテリアは、家の印象を大きく左右します。また、そこに住む人の生活の質にも大きな影響を与えるなど、私たちの生活において重要な役割を果たしています。

笠松さんは、以前は飲食店の仕事に就いていましたが、営業の仕事に挑戦したいとの想いから現在の会社に入社しました。

担当はカーテン、ブラインド、壁紙の営業を行っているそうで「営業の仕事は、お客様が本当に求めているものが何なのかを掴まなければなりません。自分のイメージをストレートに表現される方や、こちらからの提案でイメージが見えてくる方などタイプが様々です。そのため、お互いに話し合える関係を築くことが大切だと感じています」と話す背景には、以前、コミュニケーションがうまく取れずにカーテンの寸法の発注を誤ってしまい、コミュニケーションの大切さを痛感した経験があったそうです。

「入社2年目になりますが、自分自身、商品の知識がまだまだ足りません。お客様からの問合せに即答できないときなど、特にそう思います。早く取り扱っている商品の特徴を掴み、的確なご提案ができるようになりたい」と話します。

また「指導いただいている先輩は商品の知識が豊富。本当に助けてもらっています。私にも最近、後輩が一人できました。仕事のアドバイスはまだできませんが、何かあれば相談を受けることはできるので、少しでも力になれればと思っています」と話してくれました。

カーテンなどの商品の取り付け作業を行うこともあるそうで「今の目標は、営業から取り付けまで一人で出来るようになることです。今は少しずつできることが増えている。それが楽しいですね。そして将来は、インテリアデザイナー、窓装飾プランナーなどの資格を取得し、より高いレベルでお客様のニーズに応えられるように努力していきたいです」と力強く話してくれました。

これからもお客様の住み良い住環境のために頑張ってください。

壁紙などの商材を積み込み、営業先へ向かう笠松さん。隣県まで営業に出向くこともあるそうです。

株式会社ヤマプラス仙台
柴田町大字四日市場字通り木71-10
TEL56-2511
昭和47年、株式会社ヤマプラスのグループ会社として設立。インテリアの総合商社として幅広い顧客のニーズに対応している。従業員19人。

人口と世帯数（平成30年10月1日現在）

37,980人（前月比9人増）	18,946人（前月比4人増）	19,034人（前月比5人増）	15,756世帯（前月比1世帯減）

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。

2018年11月1日（685）号　発行／宮城県柴田町　編集／まちづくり政策課
〒989-1692　宮城県柴田郡柴田町船岡中央2丁目3番45号　☎0224-54-2111
FAX 0224-55-4172　URL http://www.town.shibata.miyagi.jp/